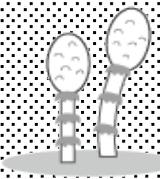


# つくしだより



平成26年11月号

東京都精神障害者家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www4.ocn.ne.jp/~tfsukush/>

発行者 眞壁 博美

2014.11.15 第293号

## みんなねっと石川大会の報告

都連理事 塚本 邦之

全国精神保健福祉会連合会「みんなねっと」と石川県精神障害者家族会連合会主催による第7回「みんなねっと全国大会」が、金沢市において10月16日(土)から17日(金)にわたって開催されました。会場は兼六園に近い同市の中心地にある金沢歌劇座で、参加者は予想を超えて1100名を超えました。

大会のスローガンは、本年1月にわが国が批准した障害者権利条約の主旨に合致した「笑って語ってつながって、いまこそめざそう!ともに生きる社会を」が掲げられました。

全体会にはいり、冒頭の基調講演に立ったのは、精神科専門医で静岡県で診療所を開いている夏刈郁子氏でした。学生時代から40年近くにわたって母親が統合失調症であることを隠してきたことを最近公表し、心から反省しているとのことでした。そして家族会一員となれたことで、この病気への理解がさらに深くなったとも述べました。同氏によりまずと、家族の立場に立つことで精神疾

患を病む人とその家族の痛みや苦しみが自分のものと感じられるばかりでなく、人間存在とその尊厳の理解にも密に関係することを告白しています。

さらに同氏は医師として、この疾患は自分の身体に降りかかることのないものとして部外者意識で扱うのではなく、いつ何時もその疾患の当事者となるかもしれないという柔軟な考えをもって対応すべきだと述べました。そうすれば、患者の生活やその回復に関して真摯で有益な支援や助言を与えることもできるはずだと説きました。この夏刈氏自身の反省と人生観に基づく講演には参加者すべてが深い感銘を受けました。

続いて演台に立ったのは連合会理事長の本條義和氏で、前年度の事業・活動報告でした。同氏は、社会全体が障害者とその家族の生活と治療をつくりあげなくては、役立つ制度は稼働しないと説きました。

第一日目の午後は、厚生労働省援護局精神障害福祉課課長富沢一郎氏による精神保健福祉行政の現状についての報告がありました。さらに金沢医科大学教授の川崎康弘氏に

よる精神科利用法という有益な講演が続きました。

大会の2日目には参加者は5つの分科会に分かれ、それぞれの分科会ごとに意見の発表と討議を行いました。各分科会のテーマは①家族会活動②就労促進③偏見と差別④家族支援⑤障害のある本人活動でした。

大会の終わりにあたって、大会アピールが発表されました。その内容は国の関係諸法則の改革は進み、行政の義務規定も徐々に改善に進んでいることを評価しました。しかし、それらの施策を実現させる社会的基盤は、まだまだ不十分です。そこで全国の家族会は、組織の総力を挙げて基盤の一層の充実に努めることを宣言しました。



## 家族会活性化リーダー・サブリーダー 研修会が開催されました。

都連副会長 川崎洋子

去る10月3日、東京都障害者福祉会館で行われ、各単会から50名ほどの方が参加されました。講師は、新会長の眞壁博美さんで、みんなねっとが出版している「家事会運営のてびき」をテキストにして学習しました。

活性化のポイントは、7つあります。

1. 役員会の定例化
2. 会報発行
3. 定例会に支援者・専門家をいれる
4. 年間計画をたてる
5. 会員同士が仲良くなる機会をつくる
6. 地域を変えていく取り組み
7. 事務所がある

役員会については、役割分担をして、気楽に活動に参加できる工夫をして、民主的で活気のあるものにするのが大切で、また、役員の後継者の育成も欠かせないこと、地域との関係性では、一般市民に呼びかける講演会を開催したり、「立川麦の会」では、地域の人たちの協力で、利用者が農業体験をし、元気に成っていること、また、他団体と連携をとり、「障害のある人もない人も暮らしやすい立川を考える会」を立ち上げ、条令づくりに向

けていることなどが話されました。また、合唱団をつくり、毎年「春を呼ぶコンサート」に参加されており、毎月の例会では初めの50分は、みんなで合唱の練習をするそうです。

飛鳥会有志による日本舞踊の後、交流会がおこなわれ、北区飛鳥会と世田谷区あかね会からそれぞれ会の報告がありました。

今年で40周年をむかえる飛鳥会は、その活動は広く、3カ所の就労継続支援B型事業所、グループホーム、地域活動支援センターを運営しています。北区が平成19年から開始した「精神障害者相談員制度」に飛鳥会から家族が3名登録し、活動しています。

あかね会は昭和大学烏山病院の家族会で、昨年50周年を迎えました。年間活動は色とりどりで、バスハイク、バザー、ロビーコンサートなど、お楽しみがいっぱいです。

また、加藤院長が発達障害の専門家ということで、発達障害者の親の会「烏山東風の会」が結成されており、講演会など共催で開催しています。バザーの収益金が、1回に30万円ほどだそうです。開催までのご苦労は大変だと思いますが、一般の人の参加も多く、毎年楽しみにしている人もいます。

家族会活動は、それぞれ役割を持ち楽しく活動することが、元気に成ることを学習できた研修会でした。

## 私たちの要望実現を目指して

都連副会長 植松和光

今年の2月から各家族会の皆様と一緒に準備してきました。平成27年度東京都予算編成に対する要望書を7月に提出し、都から回答をいただきました。この回答に対して、私たちは、重点を絞り要望内容の実現を目指すことにしました。その第一は、他障害との格差是正です。精神障がい者には都の事業である医療費の助成制度が適用されていません、又、福祉手当についても無支給です、更にJR運賃等割引制度も適用除外です。

第二は精神疾患の早期発見早期治療です、精神疾患の多くが10代に発病しています。この、早い段階で治療が施されれば慢性疾患にもならず十分社会の中で暮らすことができます。そのためには、小中学校段階での児童・生徒に対する「心の病」の学習、教職員への研修の実施、又、一般都民への開発活動です。精神疾患を理解するための講演会の実施やパンフレットの作成などで、早い段階での気づきや対応を促すことにより一人でも多くの精神疾患患者を減らすことが大事です。以上が重点の一部ですが、これらの要望を多方面から取り上げ、実現を目指して行きたいと思っています。各単会の皆様におかれましても共に力を併せてがんばりましょう。

# 家族会紹介

## 足立区あしなみ会の紹介

代表 石川 和子

あしなみ会は、元全家連、東京つくし会の結成に続いて昭和44年に、故服部高彦氏と今もひだまりの会の事務局長として、会報作りや例会の企画等に頑張っておられる百合子ご夫妻のご努力により結成されました。

結成式には32名の家族の方、当時の足立保健所予防課長、東京つくし会山川会長、烏山病院の竹村先生も出席されました。東京では荒川めぐみ会に次ぐ二つ目の家族会で、服部高彦氏が会長に就任し、保健所の協力を得て月1回例会を開き、勉強会、個人相談、訪問活動など精力的に行ないました。例会には当事者の参加もOKで「四季の歌」など元気に歌ったり、ゲームなどして和気あいあいと楽しい例会でした。

それまで、誰にも相談できず、どうしているかも分らず途方に暮れていた家族の方は家族会が出来た事で、どんなにか心強かったか知れません。それから44年、私たち会員は、結成の時の精神を忘れず、みんなで協力して家族会を続けています。

足立区の人口は約64万人で精神の障害の方も多く住んでおられ、家族会もひだまりの会、東京足立病院つばさ会、北千住旭クリニックオリーブ会とあしなみ会の4家族会が

あり、4家族会で足立区精神障害者家族会連合会（会長ひだまりの会会長三浦勝之氏）として足立区障害者団体連合会に加入し、毎年夏に行われる対区要請活動に参加します。他団体の方から精神の施策の遅れを訴えてくれます。また、4家族会では暑い夏に区に要望書を提出し、懇談をしています。要望書は区議会各会派にも提出しています。三障害一元化が謳われるようになってから、区議会に

「心身障害者福祉手当を精神障害者保健福祉手帳一級保持者に区独自で月5000円を支給して下さい」の陳情を提出、厚生委員会で審議する度に四家族会揃って励まし合いながら傍聴していました。ついに一昨年10月の厚生委員会を経て本会議で全会派一致で採択されました。しかし、みんなで手を取り合って喜んだのも束の間、「財政的に厳しい」とまだ予算化されていません。が、衛生部として「重く受け止めている」と発言されていますので、今後、つくし会の皆様に良い報告が出来るまで要望し続けます。4家族会が揃って活動することで、行政に重く受け止めて貰えます。また、持ち寄ったお茶やお菓子をいただくのも楽しみです。

あしなみ会は長い歴史の中で、5箇所の作業所設立と運営、それらを法律に守られ、地域に認知された施設にするための社会福祉

法人の設立に、多くの方々の支援のもと頑張った時期もありました。

長年必死で頑張ってきた会員さんもここ数年で何人も帰らぬ人になりました。その娘さんが、親御さんの思いを継ぎ、兄弟の立場で2名、会に参加して下さいます。また、若い方が母親の立場で入会して下さい、会が活性化しています。8月を除き毎月発行している会報に載せる例会報告を手早く書いて下さったり、「例会で、歌をうたいましよう」と歌集を作ってくださいたり、例会を楽しく盛り上げてくれています。ベテランの会員さんが集まって会報の発送をしてくれます。会費は、会結成時の年3600円の据え置きで、会員も増えない中、厳しい財政ですが、素麺や会員さんの畑で穫れた野菜の販売などで、5人分位の収入をあげています。毎月（8月は休み）の例会の内容は、みんなで決めています。10月18日に日帰りバス旅行を実施、気兼ねなく心から楽しめる一日を過ごしました。



## 西ブロック相談員養成講座

都連理事 松原のり子

お彼岸も過ぎやさしい日差しの下、9月27日、15名の参加を得て、ゆあフレンドの「ねっこカフェ」にて標記の講座が開かれた。

コーヒーの香りに包まれながら、ロールプレイから、各自想像の翼を広げ相談者の悩みを思い描き、言葉にしてみた。

一つ目の事例は40歳の統合失調症の女性本人からのもので年老いた両親の介護で疲れ果てているというもの。この女性に必要なことは、相談ができる人、そして癒しの心だと思いが、彼女は解決策を求めているのではなく、寄り添って自分をわかってほしいのではない。

二つ目の事例は薬について。薬が減れば息子は一歩前を歩けるのではないかという父からのもの。薬の適量は難しい。子の回復を願う親の切実な気持ちだ。

活発な意見交換の中では、ご自分の体験を踏まえてのお話が多かった。

皆さん淡々と話されているが、その間の葛藤や心労は測り知れない。だからこそ家族相談は、相談者に寄り添えるのだろう。

「希望」や「仲間」の大切も語られたが、最後のまとめは「なんとかなるさ」で結んだ。



## ★賛助会費★ (敬称略)

あさの金町クリニック	50000円
石川クリニック	50000円
大内病院	100000円
ひとみクリニック	50000円
田鹿医院	30000円
榎本クリニック	100000円

ありがとうございます。

## 講演会のお知らせ

- ☆11/28(金) みんなねっと関東ブロック大会in神奈川 地域で暮らすために今必要なこと  
講師:伊藤 順一郎氏、池淵 恵美氏他  
主催:NPO法人じんかれん・みんなねっと Tel:045-821-8796
- ☆11/29(土) 元気を保つにはどうしたらいいの? WRAP(元気行動回復プラン)を知ろう  
講師:増川ねてる氏 地域活動支援センターはるえ野センター長  
主催:小平地域精神保健福祉業務連絡会 問合せ:サングリーンTel:042-345-1585
- ☆12/13(土) 再発を防止する(仮題) 講師:東邦大学医学部精神神経医学講座教授 水野雅文氏 主催:新宿フレンズ Tel:03-3987-9788
- ☆12/13(土) 精神科医との懇談会 ~ざっくばらんに話し合ってみませんか~  
講師:精神科医 波多野 美佳氏 主催:品川かもめ会 Tel:03-3450-5207
- ☆12/14(日) 松本ハウスがやってきた in あきる野 ~笑って学ぼう統合失調症~  
主催:あきる野市障害者団体連絡協議会 問合せ:西多摩虹の会 Tel:090-1882-0306

※参加申込み・お問合せは、それぞれの主催者までお願い致します。

## 編集後記

練馬区の障害者施設の中で、精神障害者にとり、最も頼りになる施設「つくりっこの家」を紹介したい。設立は一九七八年から、今年で36年目になる。中心人物は最近後進に道を譲られた明星(アホ杉)マサさん(精神保健福祉士)で、その設立の原点は「地域で暮らす」「障害のあるなしに拘わらず」で、現在の障害者施策の中心テーマである地域移行を既に見通していたことの慧眼ぶりである。現在、練馬区の30ばかりある就労継続支援B型施設の一つである。現在40人弱の障害者が通っているが、彼らをAメンバと呼び、同時に約30人の地域の主婦を中心としたCメンバがほぼマンツーマンで共同作業をしている。Cメンバのお母さんから伺った話では、自分は精神障害は良く判らないが、一緒にいて教わることが多いとのことであった。明星さんが苦労されたことは、地域の農家の方々との協同であり、高付加価値の作業を創設したことで、通常の弁当づくり、リサイクル事業、クッキーづくりを支えていることである。最近、長野県で地元の協力を得ながらリンゴ栽培を始めた。スタッフは常勤6名、非常勤3名の9名体制である。私達家族会にとり頼りになる施設の一つである。

都連副会長 松澤 勝



つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。